

2021年11月14日

日本バプテスト川越キリスト教会

律法には何と書いてあるか。あなたはそれをどう読んでいるか。

上原 一晃 神学生(篠崎キリスト教会)

ルカ 10 章 25～42 節 善いサマリア人 マルタとマリア

招きの聖句「しかし、必要なことはただ一つだけである。」ルカ 10 章 42 節

詩編 19 編 8 節 主の律法は完全で、魂を生き返らせ／主の定めは真実で、無知な人に知恵を与える。

・善いサマリア人は、東京バプテスト神学校 2021 年度前期の公開講座「イエスのたとえ話を聞く:新しい聖書の学びへの招き」講師:山口里子さん。15回目にサマリア人(ルカ 10:30b-36)として受講したことから今回の宣教題としました。山口里さんのイエスの喩え話に登場する『主人』は、神でもイエスでもない場合も考えられるとの話に衝撃を受けた一人です。

・

おはようございます。私は上原一晃といいます。今月64歳になりました。東京の江戸川区に住む篠崎キリスト教会の教会員です。

神学校は 2017 年に聴講で始め 2020 年に本科生となりました。卒業後は専攻科に進みたい希望があります。バプテスマは 2012 年 7 月に埼玉県寄居町で授けられました。2014年2月に江戸川の実家に帰り、2015年8月篠崎キリスト教会に転入しました。要介護2と3の両親の介護をしながら、高速道路の料金所で24時間勤務をしています。川越キリスト教会の兄弟姉妹の皆様と共に招かれ、川越で礼拝を捧げる喜びを感謝します。

1. 民の為でなく、自分の生活の為に神殿に勤める祭司とレビ人

ルカ 10:25 ある律法の専門家が立ち上がり、イエスを試そうとして言った。「先生、何をしたら、永遠の命を受け継ぐことができるでしょうか。」

10:26 イエスが、「律法には何と書いてあるか。あなたはそれをどう読んでいるか」と言われる。

10:27 彼は答えた。「『心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい』とあります。」

10:28 イエスは言われた。「正しい答えだ。それを実行しなさい。そうすれば命が得られる。」

10:29 しかし、彼は自分を正当化しようとして、「では、わたしの隣人とはだれですか」と言った。

・この譬え話はルカだけに記されています。イエスが話し、律法の専門家と聴衆が聞いています。登場人物は、追いはぎに襲われたある人・祭司・レビ人・サマリア人・宿屋の主人です。

10:30 「ある人がエルサレムからエリコへ下って行く途中、追いはぎに襲われた。追いはぎはその人の服をはぎ取り、殴りつけ、半殺しにしたまま立ち去った。

10:31 ある祭司がたまたまその道を下って来たが、その人を見ると、道の向こう側を通って行った。

10:32 同じように、レビ人もその場所にやって来たが、その人を見ると、道の向こう側を通って行った。

・この「下って」には 3 つ意味があります。1 つは、都のあるエルサレムから棕櫚の町と呼ばれたエリコへくだって。

2つは、エルサレムからエリコに至る道は約30kmの急な下り坂で、海拔750mの高地から海面下250m迄約1kmの高低差があり、東京の高尾山が標高599mですから相当な山下りです。

3 つ目は、祭司がエルサレム神殿の奉仕を終えてエリコの自宅に帰る途中であることも聴衆に知らせます。エリート層の人々はエリコに(冬の)住居を持ってこの道を行き来しました。

岩や洞窟のある谷間の危険な道でした。追いはぎのたまり場で、重税や借金で困窮し先祖からの土地を奪われた人々の増加で追いはぎが多い道でした。

追いはぎは、その人の服をはぎ取り、殴りつけ、半殺しにしたまま立ち去った。その人は裸で意識不明で、生きてるか死んでいるか分からない状態で倒れていた。

祭司もレビ人も神殿での油とぶどう酒を注ぐ奉仕を終えてエリコの自宅に帰る途中で、清浄規定に縛られず隣人愛の戒めを優先させて助けることが律法に従う者として求められる状況でしたが、生死も確かめず、命を救うことがあらゆる律法を優先するという伝統的律法理解を放棄しました。

倒れている人が生きていたら、裸で素性がわからない「寄留者」であっても自分自身のように愛しなさい。と言われていました。

・死んでいる場合でも、葬る人のない死体は不浄の恐れなしに葬ることをミシュナーは命じています。

・アメリカ・ニューヨークのツインタワーが破壊された時、ユダヤ人は「グランド・ゼロ」ですべての遺体が発見されるまで祈禱による見守りを続けたと言われます。

・律法に従って生きるユダヤ人の代表と見られる祭司とレビ人が同胞を見捨てました。何千人もの祭司やレビ人が神殿に仕え、犠牲を捧げる祭儀を執り行っているが、彼等はそれを職業として生活の為にしている。民の為ではない。

2. 非差別者の民サマリア人が同胞でないユダヤ人を助ける

10:33 ところが、旅をしていたあるサマリア人は、そばに来ると、その人を見て憐れに思い、

10:34 近寄って傷に油とぶどう酒を注ぎ、包帯をして、自分のろばに乗せ、宿屋に連れて行って介抱した。

ユダヤ人から外国人とみなされて差別されたサマリア人が、見て、立ち止まり、近寄り、道端に腰を下ろし、直ぐに応急手当をします。

その人を見て憐れに思い。はらわたがちぎれるような思いをさせられた。ギリシア語「スプランクニゾマイ」が使われています。

ルカやもめの息子を生き返らせる 7:13 主はこの母親を見て、憐れに思い、「もう泣かなくともよい」と言われた。

ルカ「放蕩息子」のたとえ 15:20b 父親は息子を見つけて、憐れに思い、走り寄って首を抱き、接吻した。

内臓まで突き動かされるような激しい共感共苦の感情でいっぱいになった。「断腸の思い」や深く共に痛むという意味の沖縄の「肝苦りさ(ちむぐりさ)」に近い表現です。彼自身か家族・親しい人が同じような体験をしたことがあったかもしれません。

・「(外)傷」はギリシア語「トラウマ」の複数形が使われて、そのいくつもの傷に油を注ぎ傷口を綺麗にし、ぶどう酒を注ぎ殺菌します。

◎聴衆はホセア 6:6 を連想します。

ホセア 6:6 わたしが喜ぶのは／愛であっていけにえではなく／神を知ることであって／焼き尽くす献げ物ではない。

・そして自分のろばに乗せ、宿屋に連れて行って介抱した。当時宿屋は評判が悪い場所でした。「宿屋に泊まるなら遺書を書く方が良い」と言われた悪名高い危険な場所です。

そのサマリア人は油とぶどう酒をろばに乗せた貿易商で商隊(キャラバン隊)を組んで移動中で、宿屋は懇意の定宿だったとも考えられます。

10:35 そして、翌日になると、デナリオン銀貨二枚を取り出し、宿屋の主人に渡して言った。『この人を介抱してください。費用がもっとかかったら、帰りがけに払います。』

レビ記19章では隣人と寄留者のどちらに対しても「自分自身のように愛しなさい。」と

戒めています。

同胞も助けない祭司とレビ人に対してユダヤ人を助けた非差別民サマリア人

レビ記 19:18 復讐してはならない。民の人々に恨みを抱いてはならない。自分自身を愛するように隣人を愛しなさい。わたしは主である。

レビ記 19:33 寄留者があなたの土地に共に住んでいるなら、彼を虐げてはならない。

19:34 あなたたちのもとに寄留する者をあなたたちのうちの土地に生まれた者同様に扱い、自分自身のように愛しなさい。

なぜなら、あなたたちもエジプトの国においては寄留者であったからである。わたしはあなたたちの神、主である。

・キング牧師は説教で語りました;「祭司たちが助けなかったのは、彼らは恐れたから。『もし私がこの人を助けるために立ち止まったら、私に何が起きるだろうか?』

◎追いはぎに私も襲われる。

だがサマリア人は逆の問いをした。『もし私がこの人を助けるために立ち止まらなかったら、この人に何が起きるだろうか?』と。

◎この人は死んでしまう。と。

3. 誰が神に従う道を歩んでいますか?

10:36 さて、あなたはこの三人の中で、だれが追いはぎに襲われた人の隣人になったと思うか。」

名古屋入国管理局施設で、スリランカ人ウイシュマ・サンダマリさんが亡くなりました。DV被害で留学先の学校に通えなくなり在留資格を失い、暴力に耐えかねて交番に駆け込んで送られた先が名古屋入管でした。在留資格のない外国人は病気になっても医療行為が受けられないのでしょうか?

・隣人とはその人の自己責任を問わず、必要の中に置かれている人、私たちの助けが必要な人で、

・助けは行為となって現れなければならない。

この喩え話から私たちは何を聞くのでしょうか。善いサマリア人を見習って隣人愛の教訓を聞くことでしょうか。

10:37 律法の専門家は言った。「その人を助けた人です。」そこで、イエスは言われた。「行って、あなたも同じようにしなさい。」

「あなたは何をするべきか知っているのに、しようしない。」私たちの助けが必要な人の助け手となりなさい。

・イエスは私たちにも「あなたも行って、同じ行動をしなさい。」とされています。あな

たも隣人愛を実行しなさい。と。

・篠崎キリスト教会では、フードバンクに献品・ペシヤワール会・ガンバの会・久山療育園に献金を続けながら、御心を聴き続けています。

今日の招きの聖句にルカ 10:42a を選びました。「しかし、必要なことはただ一つだけである。」

・マルタは、「女は客が来たらもてなすのが仕事だ、姉の自分がこんなに忙しくしているのに手伝おうともしない」と妹のマリアを批判しました。

もしイエスの足元に座って話を聞いていたのが弟のラザロであれば、マルタは何も言わなかったかも知れない。

イエスはマルタが予想もしなかった忠告をマルタにされる。「必要なことはただ一つだけだ」と。

—ルカ 10:41—42「主はお答えになった『マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。しかし、必要なことは唯一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取りあげてはならない。』」

・イエスはマルタの働きを評価しながら、大事なことを教えようとされる。イエスの答えは「多くのこと」と、「ただ一つ」の対照だ。この世での生活が要求する「多くのこと」と、神が求められる「ただ一つ」のことの対照です。私たちは世で生きていく限り、生活するための多くの思い煩いがあり、心を乱すことが沢山あるが、私たちが神から恵みと祝福を受けるために必要なことは「ただ一つ」、神の言葉を聴くことだけだ。イエスはマルタに言われる「マルタよ、あなたは私の言葉を聞かずに、もてなそうとして体を動かし、体が疲れ、心まで乱れてしまった。そして、自分だけが働き、マリアは怠けていると思ひ込んでしまった。マルタよ、あなたの考え方があなたの心を乱している。私のもてなし方は二つある。私に馳走することと、私の言葉を聞くことだ、マリアはその良い方、私の言葉を聞く方を選んだのだ」。

・イエスはマルタの奉仕を否定せず、問題は彼女がイエスに向かって不平不満をいう態度、あるいは妹を評価しない姿勢です。当時の社会では、男女の役割には明確な区別があった。宗教的な勤めは第一に男性がすべきことであり、女性は神に仕える男性に奉仕することが要求された。こう考えると、マルタは当時の女性として当然の役割を果たしており、マリアのように座ってラビの話聞くことは当時の女性としては普通ではない。イエスはそのような男女の役割分担を否定して、マリアの態度を弁護している。このイエスの自由さが男女の役割分担に縛られ、人との比較の中でしか自分や妹を見ることのできなかつたマルタにとって、解放されるための「福音」だったのではないのでしょうか。

—ガラテヤ 3:27-28「洗礼を受けてキリストに結ばれたあなたがたは皆、キリストを着て

いるからです。そこではもはや、ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由な身分の者もなく、男も女もありません。あなたがたは皆、キリスト・イエスにおいて一つだからです」。

・私たちはなぜ、日曜日に教会に集まるのか。神の言葉を聞く為です。そして教会では神の言葉が語られる「洗礼を受けてキリストに結ばれたあなたがたは皆、キリストを着ている・・・そこでは男も女もない」。それにもかかわらず、社会の中では男女間に差別があり、教会も伝統的に牧師は男性で、御言葉の学びに専念し、教会の所謂雑事は女性である牧師夫人が行うことが暗黙の了解になっています。また日本には女性牧師が少ない現実があります。女性が御言葉を語ることに拒否感を持つ人々が多いからです。私たちもまた、主の足元に座って御言葉を聞くマリアを排除しているのではないのでしょうか。私たちも伝統的役割分担から解放されて、男女の新しい在り方を模索する必要があることを、「マルタとマリア」の物語は教えています。

ーローマ 10:17「実に、信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことにより始まるのです。」

・ルカ 10:26「律法には何と書いてあるか。あなたはそれをどう読んでいるか」は、私たちクリスチャンにとって聖書に向き合う者の信仰の根幹、生き方の基軸そのものを問いかけられています。

コロナ危機を私たちは2年間過ごそうとしています。アフターコロナではなく、with コロナの時代を生き続ける事になるのかもしれない。

礼拝も対面型だけでなく、zoom や Facebook、line などの SNS を利用した多様な礼拝の形を模索しています。

しかし、兄弟姉妹と共に神を求める・御言葉を聴く・聖書に聴く礼拝は変わりません。

- ・神を求めなさい。神の言葉を聴きなさい。聖書に聴きなさい。
- ・必要なことはただ一つだけイエスとの交わり・御言葉・福音を聴くこと。
- ・その為に本日川越キリスト教会の礼拝に兄弟姉妹と共に招かれましたことを感謝します。

◎祈禱

憐み深い命の神、あなたのみ名を賛美します。

本日の川越キリスト教会での礼拝を感謝します。

兄弟姉妹と共に神の御言葉・イエスの福音を聴きました。感謝します。

川越キリスト教会の兄弟姉妹が神学校の為にお祈り・お支え頂いていることを感謝します。

コロナの中にあっても共におられる神を感謝し、コロナの危機をも善きことに変えてくださる神を信じて、

全ての事に感謝してイエス・キリストのみ名によってお祈りします。アーメン。 5656語